

さまざまな理由で学校に通っていない不登校の子どもたちを対象に、学びの場をつくる動きが広がっている。道内では従来のフリースクールに加え、近年は不登校の児童生徒向けの家庭教師派遣、学習塾なども出てきた。ただ、民間サービスは家庭の費用負担が生じることが課題で、専門家は「公的支援の拡充が不可欠だ」と指摘する。
(斉藤千絵)

「数学が得意になった。先生が優しく勉強が楽しい」。石狩管内の小学6年の男子(11)は、こう言って笑顔を見せる。

集団生活が苦手な小学1年の夏ごろから学校を休むようになり、ほとんど通っていない。3年の時、家庭教師派遣会社の家庭教師プラス(札幌市豊平区)が「不登校専門コース」を設けていることを知り、自ら家族に頼んで受講するようになった。以来、週1回、自宅で授業を受けている。

現在は地元の教育委員会が設置する不登校児童向けの教室に週2、3回通い、中学からは学校に行ってみようと思っている。母親(37)は「(学校を休むと)勉強が遅れると心配したが、今は小さな自信を付けていく姿が頼もしい。学校とのちようどいい付き合い方を見つけられるよう、焦らず見守りたい」と言う。

家庭教師プラスが不登校専門コースを開設したのは6年前。スクールカウンセラーや児童福祉司の資格を持つ講師があり、生活リズムの改善につなげるため午前10時から授業を行っている。これまでに15人近くが利用した。同社員で担当の平井章太郎さん(28)は「学びを通して、子どもたちの未来の選択肢を増やしたい」と話す。

不登校の子 広がる学びの場

専門の家庭教師派遣 学習塾交流や体験も



家庭教師プラスで不登校の子どもを多く受け持つ平井章太郎さん